

西鶴賀便り

発行 長野市中心市街地
活性化協議会
長野県建築士会
ながの支部
協賛 西鶴賀町

座談会で想いを馳せる...

町の歴史は一人一人の歴史

7月7日(木)夜、女性会館しなのまでこれまでの西鶴賀町の変遷を語る座談会が開かれました。お話を伺ったのは、理容イガラシの五十嵐康夫さんと、「東鶴賀町変遷史」編集者の山田信久さん。失目のノスタルジックストリート西鶴賀のまちあるき中に、支部長の土倉さん、五十嵐さんのお宝写真(昔の西鶴賀の街並みなど)をちらちらと見せてもらったことがきっかけで、写真を囲んでお話を伺えないか」と相談したことから今回の会は実現しました。



五十嵐さんには先祖代々の写真や資料を元に、昔の商売や町の様子をお話しいただき、山田さんには「つるが新地の歴史」と題し、「鶴賀町」帯の変遷をお話しいただきました。人にはそれぞれの人生や思い出があり、その集合体が「町の歴史」となると今日まで紡がれていることを改めて実感。もし叶うなら、今後いろいろな方のお話を伺ってみたいですね。



理容イガラシ
五十嵐康夫さん

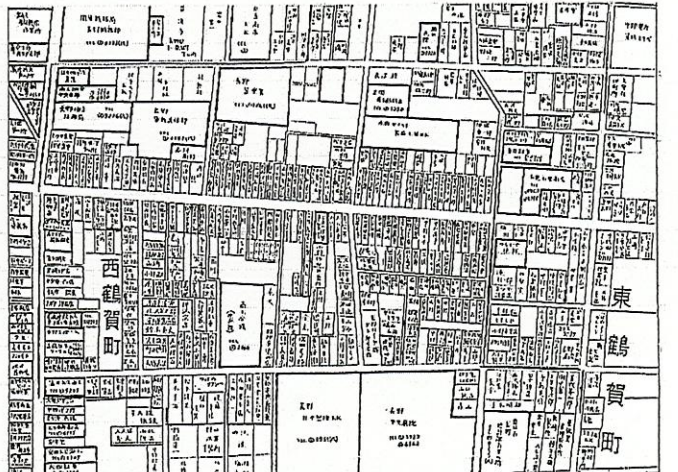


「東鶴賀町変遷史」
編集者 山田信久さん

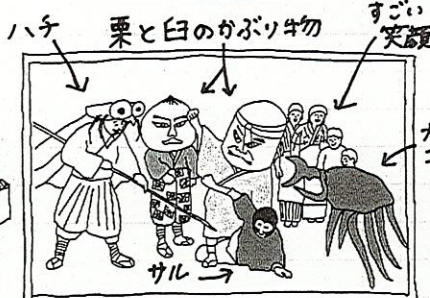


【座談会の聞き手】
長野県建築士会
ながの支部
支部長 土倉武幸さん

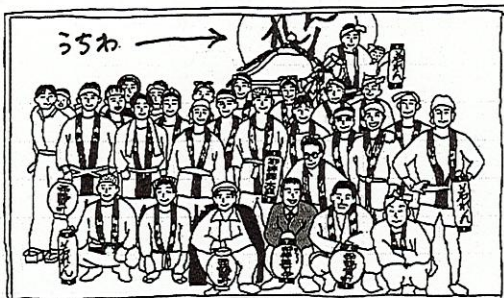
座談会登場 かつては公官庁の密集地帯だった!! 1955年(昭和30年)頃の西鶴賀町地図



中央警察署、税務署、関東財務局、法務局、商工会議
長野電気通信部、中部電力、日本無線、中央病院...
ほかにも銀行や証券、保険会社などがずらり。
肉・魚・野菜・豆腐・酒・文具・銭湯など、生活関連の店も勢揃いで、現在の約3倍の2000人が町に暮らしていた!!

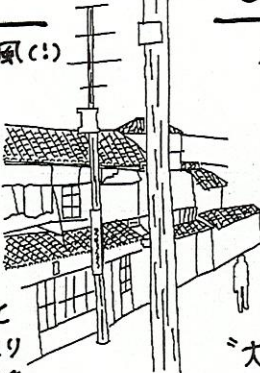


「大人の本気」を感じる「小笠原瓦屋」
の仮想芝居写真(昭和30年代)



1952年の町祭りの写真は、血気あふれる若者たちの表情がかわいい。墨一枚サイズの「若めん」うちわもお神輿と一緒にまわっていたとか...

およそ70年前から古民家風(?)だったことが半日月した9軒長屋。骨組みなど今も当時のまま。感謝して使います。



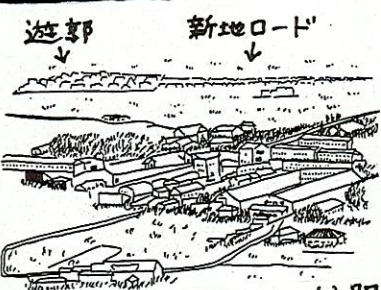
キング堂の看板の原型!!
お洒落なデザインは今でもうっすら足跡が見えます。

つばめタクシー
滝沢社長の
西鶴賀歴史コラム



西鶴賀誕生当時、この辺りで一番のお宮は田町の武井神社です。お祭の際にはこの町の住人も参加していましたが、「町ができたのなら鎮守も欲しい」との要望も出てきた事から、大正11年(1922年)に当時の役員達が懇願。松代藩主真田家が信仰してきた松代町竹山にある竹山階護稲荷神社を本社から分社、社殿は昭和3年(1928年)に建立され今に至ります。

西鶴賀町は「新地ロード」と呼ばれていた頃から様々な問題に溢れていました。遊郭が開店、閉店、増改築などを繰り返していたため、新たな入居者分の建築資材が間に合いません。そこで明治41年に城山で開催された博覧会で使われた資材を再利用したり、建てた後に増改築したりなど様々な工夫をしました。当時、遊郭も含め西鶴賀町は「田んぼに浮かぶ孤島(半島)のような存在。お隣町や住人の協力、周辺の町の力を借りて克服してました。」



城山の博覧会
会場の俯瞰写真

昭和3年に建立された竹山稲荷神社の社殿は、昭和20年半ばに増改築された2代目の社殿です。今の公民館は当時の写真より(※諸説あり)2代目の増改築後もしくは3代目の建物となります。

長野市中心市街地活性化協議会
ONLINE-Linker info@machidukuri-nagano.jp
西鶴賀エリア
リバーサイド Machidukuri-nagano.jp/nishi-tsurgu